



岩河智子編作オペラ

中山晋平物語

〜カチューシャの唄〜

中山晋平先生の若き日を描くオペラが
信州なかの音楽祭で公演されます。プロの
音楽家や演出家が係わるほか、中野市民
も参加。ここでは、このオペラの魅力と、晋
平物語のあらすじをご紹介します。



11月4日(月・祝) 開場13:30・開演14:00 中野市市民会館ホール
編作オペラ「中山晋平物語 ～カチューシャの唄～」

- 料金: 大人1000円、18歳以下500円【チケット発売中!】(未就学児入場不可)
- 市役所2階文化スポーツ振興課・中山晋平記念館・高野辰之記念館



音楽でつづる 現代の晋平物語

このオペラは珍しい構成です。中山晋平の人生の一コマを、晋平の曲を使って描きます。その一コマとは、晋平の初めての作品『カチューシャの唄』を作曲すること。どんな苦労、どんな喜びがあったのか。晋平の気持ち想像して作っていききました。例えば、作曲を頼まれて悩む晋平の頭の中は、音の精という役が「あめあめふれふれ」を、ド・レ・ミ、に分かれて忙しく歌います。また、後に出会うことになる詩人の野口雨情もなぜか現れ、児童合唱とともに『兎のダンス』『証城寺の

狸たぬき子』を歌い、童心に帰る楽しさを教えてくれます。そして『上州小唄』『中野小唄』の民謡特有の囃子言葉も、晋平に大きなヒントを与えてくれます。一方で道ならぬ恋に苦しむ島村抱月と松井須磨子の心情は『あの町この町』や『船頭小唄』のイメージで表しました。

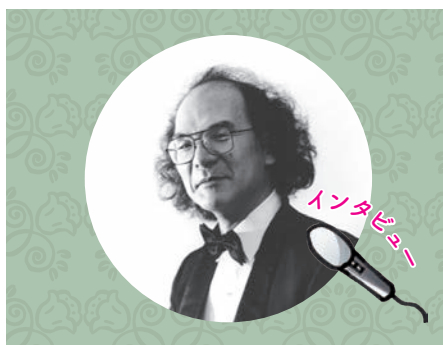
「カチューシャの唄」は晋平のデビュー作でありながら、作曲家中山晋平のすべてを凝縮した曲です。たった12小節なのに、そのメロディーはロマンチックで、親しみやすく、清らか。ソリストの歌や演技、中野市の皆さんの合唱、そして器楽アンサンブル。音楽が繰り広げる「カチューシャの唄、成立秘話」をお楽しみください。



総監督
いわかわ ともこ
岩河 智子さん
〔札幌室内歌劇場〕



演出
なかつくにひと
中津 邦仁さん
〔札幌室内歌劇場〕



特別出演(島村抱月役)
たけざわ よしあき
竹沢 嘉明さん
〔福島大学名誉教授〕



指揮
さとう ひろし
佐藤 宏さん
〔藤原歌劇団〕

昔からあり、皆さんに馴染みのある中山晋平の音楽ですが、メロディーに注目してみるとドラマチックでダイナミックなものばかりなんです。それらの音楽がもつ物語をつなぎ合わせて、具体化した。それが今回のオペラです。

オペラというと演技や言葉で伝えるドラマが普通ですが、このオペラは音楽の中に隠れているドラマで作っています。晋平の音楽に隠れた魅力を引き出すという意味でも、新鮮なオペラです。ぜひ、1曲1曲にあるメッセージを聞いてみてください。

オペラで描かれる抱月と晋平の信頼関係。「なんとしてでもカチューシャの唄を完成させたい! 劇を成功させたい!」という抱月の強い想い。須磨子と妻、両方の女性を愛している抱月。そんな多くの要素を持つ抱月が皆さんに理解いただけるよう演じ切りたいと思います。

岩河さんの編曲は、晋平の編み出した旋律の強さを現代の音楽へとよみがえらせています。晋平の故郷信州なかの、音楽の文化が強く根付いています。そのような環境で演じられることを楽しみにしています。

このオペラは、いろいろなアイデアが駆使されていて技術的にも決してやさしい作品ではありません。稽古で思ったのは、中野市の音楽文化はかなり質が高いということです。子どもや大人の合唱、地元のソリストの皆さん、それぞれが音楽にしっかりと向き合っています。晋平の曲を地元の方が演奏することは、西洋でいえばザルツブルクでモーツァルトを演奏するようなものです。演奏する人も聞く人もどちらもが晋平の曲の素晴らしさに触れられたらと思います。